

遺跡へ行こう

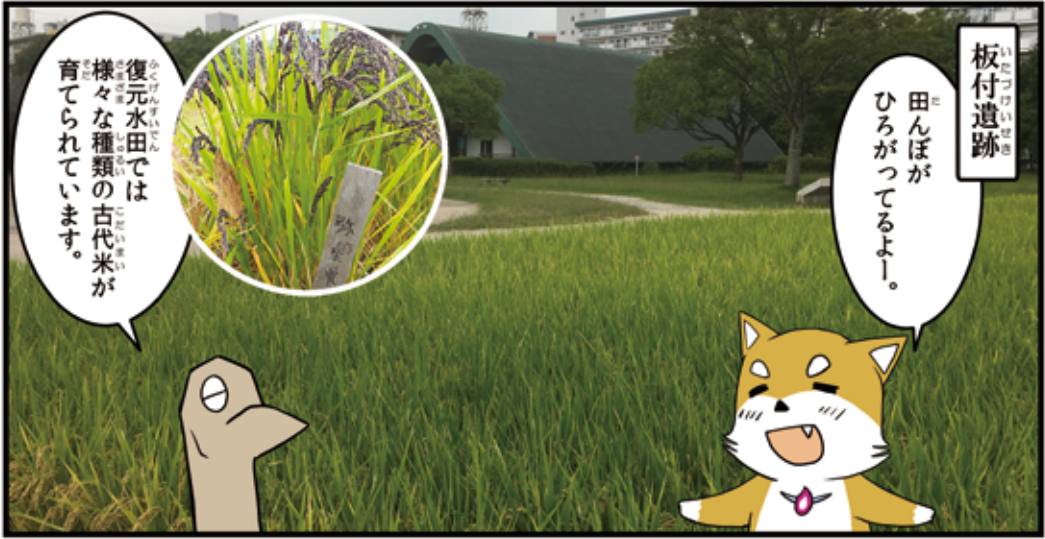
その9 水田稲作はじまりのムラ 板付遺跡



カイトとリュウさんは、大阪府立弥生文化博物館の展示品から飛び出した、博物館のキャラクター「館キャラ」です。本冊子では「弥生遺跡」や各地の「博物館」を訪ねて日本中を駆けめぐります。二匹の活躍にご期待ください！



本冊子は、文化庁からの補助金を受け、日本全国の代表的な弥生遺跡を紹介するために制作しました。

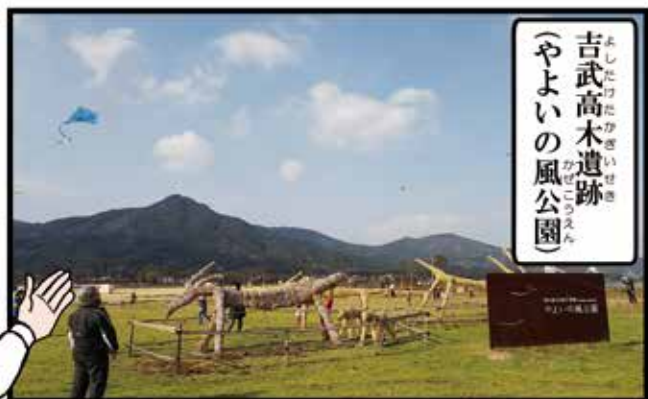


日本列島は、いまでこそ「日本」というひとつの国にまとまっていますが、弥生時代にはたくさんのクニがそれぞれの地域で独特な文化を築いていました。

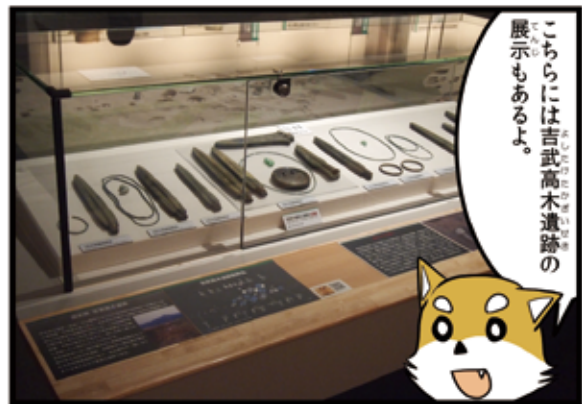
カイトとリュウさんの
遺跡へ行こう

水田稲作はじまりのムラ

板付遺跡



本冊子で紹介する遺跡を訪れば、出土した遺構や遺物はもちろん、遺跡の周りの自然や地形環境、気候のほか、遺跡の立地など、自分たちの地域とは異なる部分に気が付くはず。



島国ならではの多様な風土が生み出した、特色豊かな弥生文化。それはいまの日本文化の源流となるものです。ときには悠久の時を超え、遙か先人たちの叡智に想いを馳せてみませんか。



板付弥生のムラ (写真①)



はじめに

板付遺跡は、福岡市博多区板付二丁目、福岡空港にほど近い住宅街の中にあり、現在、その中心部は史跡公園「板付弥生のムラ」として地元のみなさんに親しまれています(写真①)。

この板付遺跡は、「日本で最初にコメが付近の深田を埋め立てるために土取り作業をしていた際、甕棺とともに銅矛・銅剣が発見されました。当時、福岡周辺の遺跡に関する考古学研究を精力的に行っていた九州帝国大学医学部教授の中山平次郎氏は、現地調査の結果とあわせ、出土した青銅器と甕棺について報告

作りが始まったムラ」として全国的に有名です。では、どうして板付遺跡が「日本最古の農村」とわかったのでしょうか。また、他にはどのようなものがみついているのでしょうか。ここでは遺跡発見のあらまし、環濠集落、水田、現在の板付遺跡にわけて、すこしくわしくお話ししましょう。

板付遺跡の発見

現在、板付弥生のムラで環濠集落を復元している場所には、かつて通津寺という寺院が建っていました。その境内で、慶応三(一八六七)年に五本の銅矛が発見されたことが過去帳に記されています。ですがその時発見された銅矛は失われ、その後実施された発掘調査でも発見場所の特定はできませんでした。

大正五(一九一六)年、地元の住民が付近の深田を埋め立てるために土取り作業をしていた際、甕棺とともに銅矛・銅剣が発見されました。当時、福岡周辺の遺跡に関する考古学研究を精力的に行っていた九州帝国大学医学部教授の中山平次郎氏は、現地調査の結果とあわせ、出土した青銅器と甕棺について報告

を残しています。土取りがなされた場所は円形の高まりであったことが中山氏の記録にあり、現在の考古学的な知見から、青銅器が出土したのは弥生時代前期末〜中期初頭頃の墳丘墓であったと推測されます。また、墳丘墓の東側に長さ一八〇cm・幅二〇〇cm・厚さ四〇cmの板状の石があったことが記録されています。土取りのあとともこの石は地元で大切に保管され、現在、その石は環濠集落の南東に移設されて自由に見学することができます。



板付遺跡出土 夜白式土器 丹塗り壺 (写真②)

戦後の昭和二五(一九五〇)年、地元で仕立て屋を営む傍ら、地元の遺跡の踏査を行っていた中原志外顕氏は、通津寺付近の畑で、刻目突帯文土器と遠賀川式土器を同時に採集しました(写真②③)。当時、縄文時代晩期の土器で、後に夜白式土器とよばれる刻目突帯文土

器と、後に板付式土器ともよばれる遠賀川式土器は同時に出土することはないとされており、これは定説を覆す重要な発見でした。当時九州大学考古学教室の助教であった岡崎敬氏は、実物の土器を前にその報告



板付遺跡出土 板付I式土器 (写真③)

を受け、翌年一月に中原氏とともに発見場所の畑を試掘、その後の日本考古学協会による発掘調査へとつながっていきま

環濠集落

中原氏による発見を受け、昭和二六(一九五二)年から四か年にわたり、日本考古学協会による本格的な発掘調査が開始されました。この調査での成果は、通津寺があった板付の台地上をめぐる溝が発見されたことです。深さ一m以上、断面がV字形の溝からは夜白式土器と板付式土器が一緒に出土し、日本種の

炭化米も出土しました。このことから原氏の発見の重要性が発掘によって裏付けられるとともに、板付遺跡が弥生時代最古の遺跡で、かつ日本で最初の水田稲作がおこなわれたことが明らかになりましたが、当時は溝の延長を見つけることはできず、今後の再調査に期待がもたれました。

その後、昭和四三（一九六八）年、日本考古学協会農業部会は、前回の調査で確認できなかった弥生時代前期の溝の延長をさぐる計画を立て、明治大学が中心となって夏休み期間中に発掘調査を行うことになりました。遺跡の一角が住宅街となった現在では非常に難しい方法ですが、溝の延長が延びると考えられる民家の庭先や畑にトレンチを設定した発掘調査の結果、前回の調査で発見された、V字形の溝が台地の高所を一周することが確認されました。弥生時代前期初頭の環濠集落の発見です。

板付遺跡の環濠は、東西八一m・南北一一〇mの卵形にめぐっています。溝の幅は場所によって一・五〜四・五m、深さ〇・七〜二・三mと違いがありますが、その断面はV字形をしています（写真④）。



発掘された環濠（写真④）

後世の削平の結果、かつての地形は失われていますが、当時の姿を復元すれば溝の幅六m、深さ三〜三・五mほどになると考えられています。環濠の両側には、溝を掘ったときの土砂が盛り上げられ、土手状をなしていたのでしよう。南西部分にか所、長さ四mあまり環濠が途切れているところがあり、ここが環濠集落への出入り口となります。環濠の内部にはムラ人のすまいがあるはずですが、発掘調査で確認することはできませんでした。板付遺跡の環濠の特徴として、環濠内の北西部に直線的な溝（弦状溝）で半月形に区画されるエリアの存在があります。ここでは発掘調査で多くの貯蔵穴がみつかっており、食料など物資の保管にかかわる区画だったことがわかりました。

この環濠は、完成までに多くのムラ人

の労力を要したと考えられますが、弥生時代中期頃までに埋没してしまいます。その後、集落は環濠の外に広がって、中心部の場所を変えながら古墳時代まで存続します。



最古の水田の発見

昭和五三（一九七八）年、環濠集落が発見された地点の南西側で発掘調査が行われました。ここは台地から外れる低地で、竪穴住居などムラ人の住みはみつからず、かわりにムラ人の日々の糧を生産する水田跡が発見されました（写真⑤）。

水田跡は上下二面にわたって確認されました。上層の水田からは夜臼式土器と



弥生時代早期の水田を発掘調査（写真⑤）



発見された弥生時代早期の炭化米（写真⑥）

板付I式土器が同時出土し、弥生時代前期初頭、環濠集落がつくられたころの水田であることが確認されました。そして、下層の水田から出土する土器は夜臼式土器のみで、出土遺物から弥生時代をさかのぼる水田跡であると考えられました。今日でいう弥生時代早期、日本最古の水田の発見です。水路の東側の土手からは炭化米がまとまって出土しており（写真⑥）、今後自然科学的な分析をおこなうことでさらに新たな事実が判明するかもしれません。

この水田は、環濠集落がある台地の縁に沿う水路に井堰を設け、水を引き入れていました。水田は畔で区画され、現在の水田とほとんどかわらない構造をもっていました（写真⑦）。発見された水田

は現在埋め戻して現状保存されています。弥生時代早期の水田の上層には、より新しい弥生時代前期の水田跡が発見されました。こちらは現在、板付弥生のムラに復元されている水田のモデルになっています。また、付近の調査地で出土した弥生時代早期の農具には、諸手鋳やエブリがみられ、水田稲作の道具や技術が完成された形で導入されたことがわかりました。



弥生時代早期の水田・井堰の復元図（写真⑦）

弥生時代前期の水田跡の上には二〇cmを超える砂が堆積していました。ムラ人が労力を費やした水田が突然の洪水で一気に埋まってしまった状況が窺えます。ですが、この洪水は私たちにもう一つの発見をもたらしました。弥生時代早期の人間の足跡が残っていたのです。福岡県警の鑑識課に調査を依頼した結果、足跡を残したムラ人は身長一六四cm前後、歩行途中で滑りそうになり、あわてて態勢を立て直していることまでわかりました。この、日本最古の水田に残った足跡は、石膏型を板付弥生館で展示しています（写真⑧）。



弥生時代早期の水田面に残された足跡の石膏型（写真⑧）

国史跡への指定

弥生時代前期初頭の環濠集落など、弥生文化の形成にかかわる重要な発掘成果から、板付遺跡は、昭和五一（一九七〇）年六月に国の史跡に指定されました。その後、幾度かにわたる追加指定を経て、現在、弥生時代早期の水田跡を含む三〇〇〇mを超える範囲が国の史跡として指定されています。

板付遺跡は最初に水田稲作を行った集落というだけでなく、弥生時代前期末から中期初頭頃には、多数の青銅製武器を副葬する墳丘墓を有する拠点的な集落であり、弥生時代全体を通じて存続してい

ました。このことは板付遺跡の歴史的位臚づけを考えるうえで見落とせない事実でしょう。

板付遺跡での活用事業

福岡市教育委員会は、史跡指定に先立つ昭和四八（一九七三）年から遺跡主要部の公有地化をはじめていました。地域住民の協力の下、昭和六一（一九八六）年度に用地取得が完了、平成七（一九九五）年に約二七、〇〇〇m²が「板付弥生のムラ」として開園しました。



Aゾーンであそぶ幼稚園児たち
晴れた日には多くの子どもたちが訪れます（写真⑨）



館内での体験学習
この日は小学生の団体見学でした（写真⑩）



板付遺跡弥生館の外観（写真⑪）

アに分かれています。一つは環濠集落を復元した「Aゾーン」（写真⑨）、その西側が「Bゾーン」です。Bゾーンにはカイダンス施設の「板付遺跡弥生館」（写真⑩）が設置され、板付遺跡から出土した土器・石器、復元模型等を用いた展示

で遺跡を解説しています。弥生時代の衣服や農具、火起こしのための器具を復元していますので、それらを用いて体験学習ができます(写真⑪)。また、ご希望の方には解説もいたします。遠方の方は事前にご相談いただければ確実です。

板付弥生のムラの特徴として、地域住民と一体となって活用事業を展開していることがあげられます。開園当初からさまざまな催しをおこなっていますが、代表的なものは「田植え祭り」と、漫画でも紹介された「秋祭り」の二つです。

どちらの催しもBゾーンに復元された水田をおもな舞台としています。田植え祭りは事前の申し込みが必要で、手作業での田植えに挑戦していただきます



秋祭りの火起こし体験コーナー(写真⑬)



秋祭りでの稲刈り風景 毎年多くの親子連れでにぎわいます(写真⑫)

す。秋祭りは田植え祭りでも植えたいネの収穫と脱穀などの農作業、勾玉づくりや火起こしといった体験学習、収穫したお米での餅つきなど、いずれも家族で楽しめる催しです(写真⑫・⑬)。遠方の方も、もし機会がありましたらぜひご参加ください。



小学五年生の稲刈り体験(写真⑮)



小学五年生の田植え体験(写真⑭)

また、板付弥生のムラでは、近隣の小学校とも共同で水田を舞台とした活用事業をおこなっています。こころは五年生のみながら田植えと稲刈りをがんばってくれました(写真⑭・⑮)。

水田にまつわる催し以外にも、講師を招いて土器づくりをする「土器づくり体験教室」(写真⑯)、地元公民館が主催す



土器づくり体験教室で作った土器を焼き上げています(写真⑯)

る「遺跡であそぼう」(写真⑰)など、いろいろなイベントを開催しています。この冊子をお読みになられた方でご興味がおありの方はぜひ、板付弥生のムラにお立ち寄りいただき、「ムラ人」となって弥生時代にタイムスリップしてみませんか。



公民館主催の「遺跡であそぼう」は多くの家族連れでにぎわいます(写真⑰)

福岡市 板付遺跡弥生館



住所：〒816-0088 福岡市博多区板付三丁目 21-1
 電話：092-592-4936
 開館時間：午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
 休館日：年末年始 (12月29日～翌年1月3日)
 入館料：無料 (団体で見学される場合はあらかじめご連絡ください)

交通アクセス：
 JR博多駅前 博多駅交通センター 13番のりば
 西鉄バス 系統「板付団地第二」下車
 ※板付遺跡の出土品は次の施設にも展示・収蔵しています。
 福岡市博物館 早良区百道浜三丁目 TEL 092-845-5011
 福岡市埋蔵文化財センター 博多区井相田 TEL 092-571-2921
 「福岡市の文化財」ホームページ
<http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>



文化庁 平成二九年度文化庁
 「カイトとリュウさんの遺跡へ行こう」その9 板付遺跡
 企画・編集：つらなる・つなごる歴史ミュージアム実行委員会
 大阪府立弥生文化博物館
 マンガ：宮野ミケ
 テキスト：福岡市教育委員会 阿部 泰之
 発行日：平成三〇年一月三〇日
 印刷所：株式会社中島弘文堂印刷所